

# みどり 緑のかけはし

<第11号>

〒981-8555  
仙台市青葉区堤通  
雨宮町1番1号  
東北大学農学部・  
農学研究科  
国際交流委員会  
No.11 March 2011

International Communication for Division of Agriculture (ICDA)



## せんだい たの 「仙台を楽しんでいますか？」



こくさいこうりゅういんかい いんちよう  
国際交流委員会委員長  
おさだ まこと  
尾定 誠

2010年度から、留学生の皆さんの大学での生活のお世話をする国際交流委員会の委員長をしている尾定誠です。資源生物科学専攻の水圏動物生理学分野にいます。

みなさんの中には、仙台に来てから1年も経っていない人から、もう何年もいる人まで様々だと思います。大学での研究、勉強や仙台での生活にはもう慣れたでしょうか？ 自分の国とは社会の仕組み、考え方や生活習慣などが違って戸惑うことも多いと思います。少しずつそれがわかってきて、少しずつ慣れて行くことが、大学での研究活動を上手に進めて行くために大事なことだと思います。みなさんも、そのことは十分わかっていることだと思います。

私は、1993～1994年にカナダ東海岸のダートマスにある Bedford Institute of Oceanography (BIO) に留学していました。研究室のボスの声が聞き取りにくく、書いた文字も読みにくかったので、実験の進め方などを確認するのに苦労しました。また、子供が病気になった時も、日本と医療システムが違い結構戸惑いました。ボスの理解と協力も大きかったのですが、仲良くなったポスドク学生、テクニシャン、秘書さんたちのいろいろなアドバイスのおかげで、早く慣れて順調に研究を進めることができました。もちろん、カナダでの生活も家族や彼らと大いに楽しむことができました。

留学生のみなさんも、気軽に相談できる先生や友人をたくさん作って、仙台での生活を楽しんで、充実した研究生生活を送ってくれることを期待しています。そして、日本とみなさんの国との未来につながる交流のかけはしとなってくれることを祈っています。

2011年10月には英語で教育する新しい国際学士コースに学部留学生の入学が始まります。農学部では Applied Marine Biology (AMB) Course ([http://www.fgl.tohoku.ac.jp/ugrad\\_std/amb/index.shtml](http://www.fgl.tohoku.ac.jp/ugrad_std/amb/index.shtml)) で留学生を受入れる予定です。留学生みなさんの後輩が農学部に入学してきます。もし会う機会があったら気軽に声をかけてあげてください。

# 留学生紹介

昨年4月・10月に新しく22名が新たに留学生としていらっしゃいましたのでご紹介します。

## 事項

1. 国籍
2. 在籍課程 (2011年3月現在)
3. 所属分野
4. 研究テーマ
5. 出身校
6. 趣味・特技
7. 自己紹介

りん りあん ちゆん  
林 良 淳

1. マレーシア
2. 学部1年生
3. -
4. -
5. 吉隆坡中華独立中学
6. 国際交流
7. 皆さん、よろしくお願ひします。



いつか皆が自分なりの幸せを得て会える日を待ちながら頑張っています。まだ日本に慣れていないためいろいろと苦しい時もありますが、私には夢があるので落ち込んだりしません。私は教師を目指していますので、必ず夢が叶うように精一杯頑張りたいと思います。皆さんどうぞよろしくお願ひします。

ふあん しゆえ ふえい  
黄 雪 霏

1. 中国
2. 大学院博士前期課程
3. 農業経営経済学
4. 地域ブランド化について
5. 北京工商大学
6. アニメ・舞台鑑賞
7. 日本に来て1年、辛いことも嬉しいこともあります、これからも頑張りたいと思います。



## 易 思

1. 中国
2. 大学院博士前期課程
3. 国際開発学
4. 揚子江流域における生態農業の発展とその課題 - メコン川デルタ地域における水田養魚モデルとの比較研究
5. 武漢理工大学
6. バスケットボール、スケッチ
7. 私は揚子江のそばで生まれ育ち、大学時代も揚子江の近くで送りました。以前から、日本の歌舞伎や相撲など伝統的なものに興味があり、独自の伝統と西洋の要素との両方で構成されている日本文化をもっと学んでみたいと思います、日本に留学することにしました。大学院卒業後は、貴重な留学の経験を生かし、中日の友好関係に貢献したり、中日の文化や経済の懸け橋になりたいと思います。



り めい ふあ  
李 美 花

1. 中国
2. 大学院研究生
3. 動物遺伝育種学
4. 抗病性に優れた改良豚及びこれらの交雑豚における免疫特性解明
5. 吉林農業大学
6. 旅行、スポーツ (特にマラソン)
7. 私の故郷は吉林省東部の朝鮮族自治州です。一番自慢できるものは長白山です。高さ約2,700mで、山の頂上には一年中雪が積もり、大きな池があつてとてもきれいです。家族は4人ですが、よりよい生活のために離れて暮らしています。両親は韓国に、弟は中国に、私は日本に居ますが、



## Intan Muliani Fajarsari

1. インドネシア
2. 大学院博士前期課程
3. 農業経営経済学
4. Fruit Plantation Registration Program as an Empowerment Strategy to Increase the Farmer's Wealth
5. ポゴール農業大学
6. 料理、読書 (小説)、ネットサーフィン、ダンス、バスケット



トボール、ショッピング

7. こんにちは、皆さん。私はインドネシア出身の Intan です。2010年10月初旬に初めて日本へ来ました。インドネシアでは農業省で働いています。専門分野はインドネシアのフROOTSの開発です。どうぞ宜しくお願いします。

スディルマン アハメド リスディヤント  
**Sudirman Ahmad Risdiyanto**



1. インドネシア
2. 大学院博士前期課程
3. 国際開発学
4. The Implementation of subsidized Rice for the Poor (RASKIN) Program (A Case Study in South Konawe District)
5. ハサヌディン大学
6. 旅行、読書、歌をうたうこと、バドミントン
7. こんにちは、皆さん。私は2010年9月下旬にインドネシアから来ました。リンケージプログラムの修士課程で1年目はブラウイジャヤ大学で学び、2年目の現在、東北大学で学んでいます。インドネシアは雨季と乾季の2つの季節しかありませんので、四季のある仙台での暮らしを楽しんでいます。仙台は大都市であると同時に自然環境にも恵まれており、生活するにはとても快適な都市であると感じています。インドネシアでは、地方自治体の経済部門で、経済生産性および設備に関する政策の策定・運用・監視を行うシニア・スタッフとして7年余り勤務しています。さらに、「貧困対策のための教育プログラム」にも携わっています。食糧と農業という観点からヒューマン・セキュリティについて研究することにより、繁栄と尊厳を保ちつつ、いかに人類を守っていくべきかを学べると思います。どうぞ宜しくお願いします。

リエス トリアナ デヴィ  
**Lies Triana Dewi**



1. インドネシア
2. 大学院博士前期課程
3. 国際開発学
4. Community Participation in the Implementation of Keduang Sub-Watershed Conservation (A Case Study in Wonogiri Regency, Central Java, Indonesia)
5. ガジャマダ大学
6. 音楽鑑賞、歌をうたうこと、バドミントン、テニス、卓球、水泳
7. 左の頬にえくぼのある長い黒髪の女性はだれでしょう？それが私です！私はインドネシアのジョグジャカルタで生まれ育ちました。東北大学で研究できるという素晴らしい

い機会を得ることができました。2010年9月29日に1年間の予定で日本に来ました。日本へ来たのは初めてです。2005年からインドネシアの森林省で働いており、特に流域マネジメント部門で森林生態系管理に従事しています。どうぞ宜しくお願いします。

そ 蘇 きよん は 敬 夏



1. 韓国
2. 大学院博士後期課程
3. 動物生理科学
4. 脂肪細胞分化形成過程に関する遺伝子の機能解析
5. 済州大学
6. 旅行、映画・舞台鑑賞
7. 私はソ・キョンハと申します。アメリカと韓国の研究所で仕事をしておりましたが、勉強への思いが強くなり、2010年10月から博士後期課程に入学することになりました。留学生生活を通じて良い結果を得られればと思います。どうぞ宜しくお願いします。

い 李 すん ふん 昇 勳



1. 韓国
2. 大学院博士後期課程
3. 動物生殖科学
4. ブタ卵子の細胞質成熟のメカニズムに関する研究
5. 建国大学校
6. 読書
7. 私は韓国の国立畜産科学院で働きながら修士課程を修了後、東北大学農学研究科の博士課程に入学し、動物生殖科学研究室で学んでいます。仕事と勉強を同時に行うのは不可能なことではありませんが、勉強に集中したいので仕事を休職し、留学することに決めました。宜しくお願いいたします。

ば いん だ ら 巴 音 达拉



1. 中国
2. 大学院研究生
3. 生物共生科学
4. 種多様性維持メカニズムの解明
5. 内蒙古師範大学
6. バスケットボール、登山
7. 私は新疆出身のモンゴル人です。2010年7月に内蒙古師範

だいがくせいめい か がくおよ ぎじつがくいん しゅうし かてい しゅうりょう たびはく  
 大学生命科学及び技術学院で修士課程を修了し、この度博  
 しこう しゅとく  
 士号を取得するために2010年10月から生物共生科学研究  
 しつ けんきゅうせい  
 室で研究生として勉強しています。皆さんどうぞ宜しくお  
 ねが  
 願いたします。

ちえん しゃん にん  
**陳香凝**

1. 中国
2. 大学院特別研究生
3. 機能形態学
4. Effect of Plasma factors on adipogenic differentiation of Bovine preadipocytes
5. 揚州大学
6. 映画鑑賞、卓球、旅行



7. こんにちは、皆さん。私は揚州大学から来た陳香凝と申  
 ます。揚州大学では修士課程の2年に在籍しています。交  
 かんりゅうがくせい  
 換留学生として東北大学で学ぶ機会を得られたことを大変  
 ほこ  
 誇りに思います。仙台での生活にも徐々に慣れ、日本語を  
 べんきょう  
 勉強し、経験を積むために最大限の努力をしています。大  
 学や仙台のことにしてもっと学びたいと思っていますの  
 で、皆さんのお力をお借りできれば幸いです。

りゅう しい  
**劉曦**

1. 中国
2. 学部研究生
3. 分子生物学
4. 未定
5. 北京工商大学
6. バスケットボール、旅行



7. 皆さんこんにちは。私は劉曦と申します。北京出身です。  
 現在、研究生として分子生物学研究室に在籍しています。  
 にほん ぶんか  
 日本の文化に対して大変興味を持っています。専門技術と  
 ちしき ちくせき  
 知識を蓄積すると同時に、修士課程への進学のために一生  
 けんめいがんば  
 懸命頑張っています。皆さんどうぞ宜しく願いたします。

ちやう うえん ぼ  
**赵雯博**

1. 中国
2. 学部研究生
3. 環境経済学
4. 中国農村における地域文化の役割と経済発展に関する研究
5. 内蒙古工業大学



りようこう おんがくかんしやう  
**6. 旅行、音楽鑑賞**

7. 私はチョウ・ウエンボと申します。2010年4月に来日し  
 ました。日本に来てしばらく経った頃、桜が咲きました。桜  
 を見るのは初めての経験でした。きれいな花なのでとても  
 感動しました。その感動と共に頑張って前に進んで行こう  
 と思っています。

アシス マナロ ユーニコラス  
**Asis Manalo U-Nichols**



1. フィリピン
2. 学部研究生
3. 農業経営経済学
4. Promotion and adaptation of Organic Farming in selected provinces of the Philippines based on Japan's experiences as policy model framework
5. フィリピンロスバノス大学

6. 旅行、読書(小説)、プラモデル、エアソフトガン、ダンス、  
 サッカー、水泳、バレーボール、バドミントン、ネットサー  
 フィン、登山、ドライブ、料理

7. みなさん、はじめまして！私はフィリピン出身のユーで  
 す。2010年4月1日に来日し、仙台で暮らし始めて約1年  
 になります。2007年にJICAの研修で秋田県と山形県へ来  
 た経験があり、日本へ来るのは今回が2回目です。フィリ  
 ピンでは政府の様々な機関に13年間勤務し、現在は、日本  
 の農林水産省にあたる農業部門でプロジェクト・オフィサー  
 を担当しています。ここ6年間は、貧困地域、高原地域、  
 ミンダナオの紛争地域などでの農業プロジェクトの調整官  
 を務めています。私の専門は、プロジェクトの起草、推進、  
 監視だけでなく、異なるプロジェクトの利害関係者間の調  
 整まで含まれます。もしフィリピンの農業に関して興味があ  
 る方がいれば、お気軽にご質問ください。私は幸いにも結  
 婚しており、ちょうど4歳になるかわいい一人娘がいます。  
 どうぞよろしく願いたします。

わん うえい  
**王偉**

1. 中国
2. 学部研究生
3. 農業経営経済学
4. 有機食品の生産・流通システムに関する中日比較研究
5. 曲阜師範大学



6. バスケットボール、スキー

7. 私は山東省青島の出身です。スポーツに興味を持っており、  
 特にバスケットボールが大好きです。明るい性格なのでチー



ムワークも保てます。将来は、中国と日本の文化交流のために自分の力を捧げたいと思います。今は日本語がまだまだ十分ではありませんが、一生懸命頑張りますのでぜひ宜しくお願いいたします。

## 陸 拾 柒

1. 中国

2. 学部研究生

3. 動物遺伝育種学

4. 豚の免疫能の育種改良に関する研究

5. 内モンゴル農業大学

6. モンゴル相撲、長距離走、バスケットボール、音楽鑑賞、絵を描くこと、乗馬

7. 私はモンゴル人です。2010年10月3日に内モンゴルから来ました。現在、動物遺伝育種学研究室で学部研究生として在籍しています。遊牧生活の中で生まれ育った私は、知らず知らずのうちに動物に対しての愛情を育ててきました。そのため、内モンゴル農業大学に入学する際、動物に関連する分野を選びました。良い環境と優しく優秀な先生方と研究室の皆さんのご指導の下、この研究分野で優れた成果を出すために一生懸命頑張ります。皆さん、どうぞ宜しくお願いいたします。



6. バレーボール

7. 劉揚帆と申します。成都人ですが、先般の地震は体験していません。好運というか残念というか微妙な気持ちでした。子供の時から日本の文化に憧れていたため日本に来ました。留学生の皆さんは様々な目的を持って留学して来たことと思いますが、ここでの出会いは神様のご指示のように思われませんか。皆さんと一緒に頑張りたいです。

## 郭 晓 艳

1. 中国

2. 学部研究生

3. 動物資源化学

4. 未定

5. 上海海洋大学

6. 旅行、音楽鑑賞

7. 私は上海から来た郭と申します。東北大学へ来るのは2回目です。私は日本の奥深い文化と先端技術を尊敬しており、東北大学の先生方や学生の皆さんの研究に対する真摯な態度に感動しています。これから、多くの知識と経験を蓄えるように頑張ります。



## 解 宇 晨

1. 中国

2. 特別聴講学生

3. 水産資源化学

4. 未定

5. 上海海洋大学

6. 旅行、卓球、歌をうたうこと

7. 私は中国から来た解と申します。特別聴講学生として日本に1年間留学しています。1年はとても短いですが、専攻している分野についていろいろな知識を吸収し、日本の文化や生活もいろいろ体験しています。先生方や学生の皆さんが親切なので日本の生活は楽しいです。今はまだ日本語が流暢ではありませんが頑張っています。



## 白 兰 兰

1. 中国

2. 学部研究生

3. 動物微生物学

4. 口腔病原細菌の病原因子解析と機能性物質による制御

5. 内モンゴル農業大学

6. 絵を描くこと、バレーボール

7. 私は白兰兰と申します。内モンゴルから参りました。2009年に内モンゴル農業大学を卒業しました。私は草原で生まれ育ったモンゴル人です。皆さん、どうぞ宜しくお願いします。



## 劉 揚 帆

1. 中国

2. 学部研究生

3. 農業経営経済学

4. -

5. 中国農業大学



## 沈 晨 晨

1. 中国

2. 特別聴講学生

3. 水圏生態学

4. 鞭毛虫類の研究

5. 上海海洋大学

6. バドミントン、読書



7. 私は沈と申します。2010年4月に上海海洋大学から交換留学生として日本にきました。現在、水圏生態学研究室で毛虫類の研究をしています。プランクトンについてたくさん勉強したいです。日本の生活はとても楽しいです。どうぞ宜しくお願いします。

Luigi Coppola

1. イタリア
2. 大学院特別研究生
3. 動物生殖科学



4. To Ascertain whether Metaphase II(nII)

Spindle Shape Influences Oocyte Competence, we Examined

Meiotic Spindle Organization in (in vitro) Porcine Matured Oocyte under Different Culture Condition

5. ラキユラ大学

6. サッカー、旅行、音楽鑑賞

7. 私は明るく親切な性格で、人の輪の中に入り新しい人々と知り合うことが好きです。また、旅行をして自分の文化とは異なる新しい文化を発見することも好きです。いつかこの美しい国に再び戻って来られることを願っています。

平成22年度学術交流協定校間交流および活動実績報告

ラキユラ大学実験医学部 (イタリア)、スウェーデン農科大学獣医学部、  
 済州大学動物資源学科 (韓国)

動物生殖科学分野 教授 佐藤 英明

●ラキユラ大学実験医学部

Bentham Science が2008年に創刊した The Open Anatomy Journal は形態学分野で存在感を発揮しつつあるが、佐藤英明教授は創刊以来編集委員長として編集にあたっている。編集委員会強化のため2010年にラキユラ大学実験医学部の Guido Macchiarelli 教授 (国際解剖学会事務局長) に副編集委員長を依頼し、快諾を得た。International Symposium on Morphological Science は日本解剖学会の会員も含め、広く世界の研究者を引き付ける形態学分野の学会であるが、第21回大会がイタリアのシシリー島の Taormina でイタリア解剖学会と同時に開催された。佐藤英明教授は Stefania Nottola 教授 (ローマ大学医学部解剖学教室) と「Female Fertility: from Morphology to Clinic」のセッションをオーガナイズし、座長及び講演を行った。動物生殖科学分野に3度滞在したことのある Palmerini Maria Grazia 博士が最近生まれた子供と主人同伴で学会に出席し、動物生殖科学分野と共同で行った実験結果をポスターで発表した。

博士課程2年に在学中の Luigi Coppola 君が2010年8月29日-11月28日までの3カ月間動物生殖科学分野に滞在し、卵母細胞の微小器官の動態に関する免疫化学的な実験を行った。

Sandra Cecconi 准教授が「Molecular pathways involved in female fertility」と題する特集号を Journal of Current Pharmaceutical Design から出版する計画を進めているが、動物生殖科学分野からも寄稿を依頼されている。



Luigi Coppola 君 (前列左) と動物生殖科学分野のメンバー

## ●スウェーデン農科大学獣医学部

Heriberto Rodriguez-Martinez 教授と佐藤英明教授は Wiley-Blackwell が出版する *Reproduction in Domestic Animals* の編集に編集委員長と副編集委員長として対応しており、たびたび、雑誌編集について意見交換しているが、2019年10月に Rodriguez-Martinez 教授は Department of Clinical & Experimental Medicine, Linköping University に異動し、新しい研究室を立ち上げた。部局間交流協定締結前からスウェーデンの研究費授与機関 STINT の Institutional Grants の授与を受けて共同研究を行ってきたが、この間、Rodriguez-Martinez 教授と佐藤英明教授との共同研究成果は *Biology of Reproduction* などに5編の原著論文として公表してきた。

Rodriguez-Martinez 教授とは共同研究の継続に合意し、「国際交流事業スウェーデンとの共同研究 (VINNOVA)」への申請を行うこととなり、Linköping 大学側は独自に STINT, Institutional Grants に「Research Cooperation Programme in reproduction and development biology between Linköping University and Tohoku University, Japan」を申請した。今後は、スウェーデン農科大学との交流実績を踏まえて Linköping 大学との交流を進めたいと考えている。

## ●済州大学動物資源学科

動物生殖科学分野で課程博士を修了し、済州大学 Stem Cell Research Center に勤務する Young Joon Han 君を介して交流している。2019年4月15日-16日、第2回 Chungbuk National University and Tohoku University Joint Seminar on Animal Reproduction を Han 君と桜井優広君 (東北大学) を Secretary Generals として応用動物科学系会議室で開催した。韓国から Jin Hoi Kim 教授 (Konkuk University)、Nam Hyung Kim 教授 (Chungbuk National University)、Tao An Kim 教授 (University of Gyeongsang School of Medicine)、Ku Min Chung 理事長 (21st Century Life Science Foundation)、韓国動物繁殖学会 (会長)、吉田仁秋院長 (吉田レディースクリニック) などを迎え、動物生殖科学分野のメンバーとともに行った。済州大学からの大学院生の発表や特別講演を含め計12の講演が行われた。

また、10月28日には、Han 君が通訳を兼ね、韓国 KBS テレビの記者とカメラマンを同伴し、動物生殖科学分野を訪れた。済州島で飼育される黒毛牛の可能性についての取材であったが、佐藤英明教授は2時間ほど済州島における黒毛牛生産を中心とする韓国畜産の可能性について意見を述べた。

佐藤英明教授は日本生殖再生医学会の副理事長を務めているが、組織強化を目指し評議員に韓国の研究者を加えることになり、済州大学出身の Yang Byoung Chul 博士 (韓国国立畜産学研究所研究員) に依頼し、快諾を得た。

Han 君は大学院生 (Kyung Ha So さん) を同伴し、7月28日~29日、パシフィコ横浜で開催された第28回日本受精着床学会に出席し、So さんが研究発表した。その後、So さんは動物生理学分野 (加藤和雄教授) の大学院博士課程後期に入学した。



ジョイントセミナーに出席した Young Joon Han 君 (右) と出席者、左は動物生殖科学分野で博士号を取得した青野展也君

## ■上海海洋大学との交流実績報告 (中国) ■

水産資源化学分野 教授 佐藤 実

平成22年度から上海海洋大学との交流がさらに活発になってきた。3月に平成21年度学部特別聴講学生郭曉艳君が1年間の滞在を終え帰国した。これに先立ち、上海海洋大学から特別聴講学生の受入数を少し増やせないかとの問い合わせがあり、海洋生物科学系で相談した結果、新年度から1名から2名に増やし、新たに遠藤宜成教授の水圏生態学分野でも1名を受け入れることになった。早速4月から解宇晨君と沈晨晨君が来日し、それぞれ水産資源化学分



野と水圏生態学分野に机をおいて講義や学生実験に参加している。大学院にも上海海洋大学卒業生が多くなってきた。すでに特別聴講学生で学んだことがある于慧君と王晓丽君が大学院の博士課程と修士課程で学んでいるが、10月からは3月に帰国した郭晓艳君が再来日し、大学院生物産業創成科学専攻動物資源化学分野齋藤忠夫教授のもとで研究生として学ぶとともに、大学院入学試験を受け、見事合格して平成23年4月からの大学院進学を決めている。大学院での交流も盛んになってきた。

上海海洋大学とは、東北大学でも農学部・農学研究科以外の部局との交流も行われるようになった。10月には、農学研究科佐藤實教授と生命科学研究所村本光二教授が上海海洋大学を訪問し、「海洋生物資源の高次利用方法の開拓」のテーマで開催されたシンポジウムに参加し、講演を行った。講演には教職員に加え、大学院生、学部学生が多数参加聴講し、活気に満ちたシンポジウムであった。講演後には講演内容の詳細を質問する学生や、東北大学に留学したいがどうすべきかなどと質問する学生が我々の周囲を囲むほどであった。

東北大学と上海海洋大学との学術交流協定は2002年10月に締結され、以来1回の協定延長を経て、間もなく10年になろうとしているが、両大学の交流が部局間交流から、今後は大学間交流に発展する機運になってきた。

間もなく平成22年度の特別聴講学生の解宇晨君と沈晨君は帰国するが、新年度から新たに林中佳君と郑翊喆君が来日する。両大学間の交流のさらなる発展が期待される。



上海海洋大学にて。左より、東北大学大学院農学研究科修士課程で上海海洋大学副教授奚印慈先生、本学生命科学研究科教授村本光二先生、上海海洋大学の潘迎捷学長、筆者

## ■ボゴール農科大学・ブラウイジャヤ大学等（インドネシア）■

くさいかい はつがぶん や きょうじゆ よね くら ひとし  
国際開発学分野 教授 米 倉 等

本年度7-8月、インドネシアマラン県の農村において105軒の農家を対象にした農村調査を実施した。この調査には、ブラウイジャヤ大学の協力を仰いだ。当国際開発学分野の前期課程2年の学生が、「若手大航海プログラム」の研究資金を得て7-8月にこの調査に参加し、11月にも調査地を再訪し計2ヶ月間の現地調査を行った。農村・農家に関するオリジナルな戸票データを収集するなどの調査研究を実施できた。この調査では、ブラウイジャヤ大学経営学部大学院の学生2名も参加したが、彼らは本学ヒューマンセキュリティプログラムが同経営学部と結んだリンケージ



調査時、付近の食堂で打ち合わせ後の食事風景



村の農家の一室を借りて調査票による戸別調査、インタビューの様子



ジプログラムの学生で、10月から資源環境経済学講座に転入学した。彼らには、留学前の研修・研究を兼ねて農村調査に参加してもらった。調査の実施では、マルユニニ教授（経済学部）、ヌフィル・ハナニ教授（農学部）の協力を得た。農家経済の調査方法を実際に学びながら、農村・農家の実態を学び、彼ら自身の修士論文研究に資するようにトレーニングした。他にも一人いる同じプログラムの留学生の場合、大学間協定校であるガジャマダ大学のジャムハリ社会経済学科長および日本の国際農林水産業研究センターの協力を得て、中ジャワのウォノギリ地域での水資源保全活動に関する農村調査に参加させてもらい、フィールドワークの経験を積むことができた。提携した大学と、教育研究の両面で実質的、本格的な共同活動を推進できたのが、本年度の大きな成果であった。

## ■揚州大学との大学間協定に基づく活発な学術交流■

環境保全型牛肉生産技術開発学寄附講座 教授 山口高弘

東北大学と揚州大学は2008年6月に学術交流協定を締結し、その後、毎年継続して教員・学生の学術交流を行っています。2011年度は、3名の大学院生と4名の教職員が本学を訪問しました。

2名の大学院生、庄涛さんと儲怡然さん（修士課程2年生）は両大学間の学生の相互学術交流を図るため、短期交換留学生として、2010年10月24日～11月10日までの17日間東北大学に滞在し、応用動物科学系の大学院生を中心としたゼミの開催、各分野での情報交換、複合生態フィールド教育研究センター（川渡）の見学等を行い、相互交流を深めました。また、陳香凝さん（修士課程2年生）は東北大学の短期共同研究留学生受入（COLABS）プログラムの留学生として、2010年10月から1年間の予定で、機能形態学分野で「ウシの脂肪細胞の分化関連遺伝子の発現」に関する研究を実施すると共に、活発な学生交流を行っています。彼女は、熱心に研究を実施し、本年度の日本畜産学会第113回大会でその成果を発表する予定です。

さらに、教職員交流として、趙国琦教授、王金玉教授、劉金存書記長、霍永久准教授が2010年12月19日～25日の7日間、本学を訪問しました。この間、山谷研究科長の表敬訪問、応用動物科学系での学系講演会、関連する分野での情報交換等、短い期間ではありましたが、大変有意義な学術交流を行いました。

一方、東北大学大学院農学研究所からの訪問は、私が揚州大学の外国人招聘研究者事業（短期）に基づき、客員教授として2010年8月28日から1ヶ月間、揚州大学動物科学技術学院を訪問しました。この間、動物科学技術学院で博士課程、修士課程、学部の学生を対象に講義を、また教職員への講演も行い、活発な学術交流ができました。さらに、南京農業大学、中国農業大学、中国農學院牧畜研究所を訪問し、ウシの産肉機構や乳房炎に関する講演を行い、多くの研究者とウシの乳肉生産性に関する有意義な情報の交換をしました。一方で、北京の東北大学事務所を訪問し、日中共同研究について、意見交換を行いました。

このように、今年度は本学と揚州大学との教職員・大学院生の学術交流が例年になく活発に行われました。



揚州大学教職員の歓迎祝賀会。上段左端：趙国琦教授。下段左から3人目：劉金存書記長、4人目：王金玉教授



中国農學院牧畜研究所での乳房炎に関する講演

たいべい い がくだいがく たいわん のう か だいがく  
**台北医学大学 (台湾) ・ ボゴール農科大学 (インドネシア)**

えいようがくぶん や きょうじゆ こま い みち お  
 栄養学分野 教授 駒 井 三千夫

1) 台北医学大学 (5月31日～6月2日) : 創立50周年記念式典への参加と記念講演

2010年5月31日から6月2日にかけて、台湾の台北医学大学創立50周年記念事業に招待を受けて、参加して参りました。初日には、全体の50周年記念国際講演会(午前・午後)と各部局講演会(昼2時間)とが開催され、全体講演は”New Challenges for University Education and Health Research in a Globalized World”というテーマで行われ、米国、日本、欧州、アフリカ、トルコ、タイなどの世界各国から実績のある学者が招待され、講演が行われた。これで、台北医大は110の大学あるいは大学部局との協定校を有する国際的な大学であることがわかりました。たとえば、WHOを退職されたばかりの外国の学者が何人か台北医大で教授として採用されていることも知り、その国際性に驚いた次第です。講演内容は、地球環境の問題や学生の英語教育の問題などでした。私のほうは、公衆衛生・栄養学部の講演会でお話をする機会を与えられました。演題は、”Zinc is an essential element to keep various body functions normal”でありました。もう一人の講演者は、タイのMahidol Universityの女性研究者でありました(コメ油中の有効成分の抽出)。大学院生と学部生と教職員が約150名が集まり、自由な討論時間も設けられました。2日目の50周年記念式典では、午前中は馬英九総統を始めとして各大臣が臨席する中での式典となりました。午後は、2か所にある附属病院の見学が行われ、最先端の臨床医学の現場を視察することができました。これ以外の活動としては、東北大への留学を希望する学部生と大学院生と懇談することもできました。相互の益々の交流が望まれます。



楊素卿教授とその院生と学生たちとの懇談



50周年式典後、学長(右から3番目)と共に

2) ボゴール農科大学 (11月12日～13日) : 共同研究の打ち合わせと講演

今年3月に東北大学と大学間学術交流と結んだばかりのインドネシアのボゴール農科大学 (Department of Community Nutrition, Bogor Agricultural University) の招待を受け、共同研究に関する打ち合わせと、米糠中の生理活性成分に関する講演を行って参りました。この大学からは、Dr. Ardiansyah (PD) と Puspo Edi Giriwono 君 (D3) が当研究室に来ています。11月1日午前中に、向こうの学部の説明がなされた後、駒井の講演が行われ、米ぬかの有効利用に関する質疑が行われました(計90分)。その後、女性研究者と国際誌投稿と最先端研究に関する討論の時間が設けられました。たとえば、「遺伝子解析の装置が旧式であることや、試薬なども取り寄せにくい」などと、研究の意欲はありながらも、なかなか先端研究までに至らない状況があることが説明されました。私のほうからは、「先進国との共同研究で対応できるテーマもあるのではないか」、などと提案させて頂きました。ほとんどがイスラム教のため、男性がお祈りする時間とのことで、これが設定されたようです。午後からは、より現実的な共同研究の可能性の議論(1時間)が行われました。とくに、Dr. Slamet Budijanto (食品工学科) と Prof. Ir. Budi Seitiawan (地域公衆栄養学、学科長) は、私の講演『メタボリックシンドローム改善作用を有する米糠由来成分について』は、関心が一致し、



今後のコメ精米後の廃棄物の有効利用の重要性を理解して頂くことができました。さらに、母乳分泌を高めるインドネシアの植物があることも Dr. Rizal Damanik から紹介され、これが西洋の薬よりも効果があり、これについても共同研究の必要性が指摘されました。以上、今後の両大学間（当研究科と）の資源の有効利用に関する研究と健康科学の領域の研究交流の礎になったものと存じます。



ボゴール農科大学人類生態学科のスタッフと

## ■ ウプサラ大学（スウェーデン） ■

複合生態フィールド教育研究センター 生物共生科学分野 准教授 陶山佳久

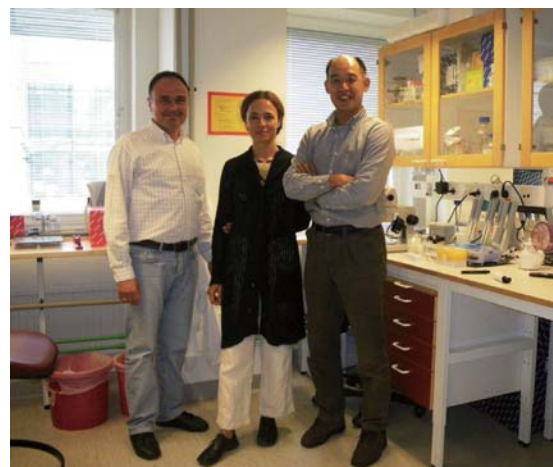
東北大学とスウェーデンのウプサラ大学は、2002年3月に大学間学術交流協定を締結している。私自身とウプサラ大学の研究者との交流も、ちょうど同じ頃に始まっており、共同研究を中心とした交流を続けて今年で8年ほどになる。本年度からは新たに科学研究費補助金の助成を受け、海外共同研究者として同大学の Laura Parducci 博士との共同研究を進めた。

本年度は、ごく短期間ではあったが一度だけウプサラ大学を訪問した。共同研究のテーマは、湖の底に堆積した針葉樹の花粉を材料としたDNA分析である。今回の訪問では、ギリシャから短期滞在していた Andreas D. Drouzas 博士や、イランからの留学生らとともに、新しく開発された分析機器を用いて実験に取り組んだ。4カ国の研究者が一つの実験室で一緒に研究を行う様子は、まさに国際色豊かで、国籍を越えた自然な交流を進めるうえで絶好の機会であった。

交流相手である Parducci 博士とは、交流当初から家族ぐるみにつきあいを続けている。この原稿を書いている最中に、ちょうどスウェーデンから家族全員のサインの入ったクリスマスカードが届いた。そのカードには、まだ3歳ほどの娘さんも一生懸命に書いたと思われるサインや、愛犬の足形までつけてあった。ご家族一人一人の顔が目に浮かぶようで、心が温かくなるのを感じた。今後とも充実した交流を続けていきたいと、あらためて感じさせられる素敵な贈り物であった。



滞在した大学ホテルの部屋から撮影したウプサラの街



ウプサラ大学の実験室にて、Drouzas 博士（左）、Parducci 博士（中）と著者（右）





# し せつけんがく じっし 施設見学の実施



10月29日・30日、農学部・農学研究科に在籍する留学生を対象に、女川町にある複合生態フィールド教育研究センターと、石巻市鮎川にある、日本の捕鯨文化を伝えるおしかホエールランド)を見学しました。

以下は参加者の感想です。

すいさん しげん か がくぶん や  
水産資源化学分野  
わん しゃお り  
**王 晓 丽**

女川のことは以前から知っていましたが、今回ようやく行くことができました。私は主に海産物を研究している研究室で勉強しているので、女川の見学が勉強にもなりました。船にも乗り、海上で楽しみながら周りの風景を眺めました。初めて船の操舵室に入り、今まで知らなかった知識を得ることができました。鯨の博物館は面白く、鯨に関しても多くを知ることができました。食事もおもてなしの一つです。女川のフィールドセンターでは、食事を用意してくださった方達がとても親切で、たくさん美味しいものをご馳走になり、楽しい旅行でした。

すいさん しげん か がくぶん や  
水産資源化学分野  
しえ ゆう ちえん  
**解 宇 晨**

2010年10月24日、留学生のための見学旅行に参加しました。天気も良く、女川の周囲の風景がとても美しかったです。私は初めて船に乗り、海を見ました。とても楽しかったです。鯨の博物館では、鯨についていろいろな知識を得ることができました。夜にはたくさんの美味しいお料理を皆さんと一緒にいただきました。留学生たちが互いに交流することもでき、今回の見学旅行は私にとって貴重な体験となりました。国際交流委員会の先生方に感謝申し上げます。



すいけんどうぶつせいり がくぶん や  
水圏動物生理学分野

**Nicholas Treen**

2010年10月下旬、数名の留学生と共に仙台から北東へ車で2時間の港町、女川への旅行に出かけました。ここはホタテ貝とカキの産地として有名で、農学研究科のフィールドサイエンスセンターがあるところです。

まず最初に、実習船「翠皓」に乗船して女川湾を周遊です。当日は、稀にみる好天と穏やかな海を満喫しました。船長さんが船内を案内して下さったので、船に装備されている全ての航法計器や科学機器を見ることができました。湾内周遊からセンターに戻り、女川で研究されている池田先生が迎えて下さいました。

昼食後、「おしかホエールランド」へ向かいました。ここでは鯨の進化や生態について詳しく展示されています。商業捕鯨が禁止されるまで、鮎川は捕鯨が盛んに行われていたところです。ホエールランドの敷地内には、かつて実際に使われていた捕鯨船も展示されており、内部を見学することができました。

その後、再びセンターへ戻り、センター職員の方々が私たちのために準備して下さいました。美味しい食事だけでなく、飲み物も数々用意されていました。辛口で落ち着いた風味の繊細な古触りが楽しめる石巻の地酒「日高見」、驚くほど上質のオーストラリア産の赤ワイン・白ワイン。その他、数種類の美味しいお酒をいただいたのですが、銘柄も味をどう表現すべきかも思い出せません。将来、再びこの地方を訪れる機会がありましたら、今回味わえなかった地元産の他の飲み物にも挑戦してみようと思います。

こんかい けんがくりょうこう おながわ ふくごうせいたい きょういくけんきゅう  
今回の見学旅行で、女川の複合生態フィールド教育研究センターとおしかホ  
エールランドに行きました。

ごぜん ふくごうせいたい きょういくけんきゅう じっしゅうせん すいこう の おながわ  
午前は複合生態フィールド教育研究センターの実習船「翠皓」に乗って女川  
湾の美観を堪能しました。女川は海に面しており、日本の水産業に最も大きい  
えいきょう あた じゅうよう みなとまち ひと ぎょぎょう おも など みずあ  
影響を与える重要な港町の一つで、漁業は主にサンマ、カキ、カツオ等が水揚  
げされるのを先生から聞き、勉強になりました。

ごご ほえーるらんとを見学し、くじら しんか れきし せかいじゅう ぶんぶ くじら  
午後はホエールランドを見学し、鯨の進化の歴史、世界中に分布している鯨  
の生態、また、日本の捕鯨文化の歴史についても少しわかるようになりました。  
なか ひじょう いんしょう のこ くじら せいかつ かんれん えいが たの  
中でも、非常に印象に残ったのは鯨の生活に関連するゲームと3D映画を楽し  
んだことでした。

よる センターに もど せんせい が た りゅうがくせい みなさん おいしい 料理を たべながら  
夜はセンターに戻り、先生方や留学生の皆さんと美味しい料理を食べながら  
おもしろ わだい はな たの こと よ いぶん か こうりゅう おも  
面白い話題を話し、楽しかったです。とても良い異文化交流だと思いました。



おうようび せいぶつがくぶん や  
応用微生物学分野  
り やん  
李 沿

がつ にち わたし りゅうがくせい おながわ とう けん  
10月28日、私たち留学生は女川のフィールドセンター等への見  
がくりょうこう で ひさ ほ ひ ころん  
学旅行に出かけました。久しぶりの晴れの日だったのは幸運でし  
た。

バスで2時間の後、おながわちょう みなとまち とうちやく  
バスで2時間の後、女川町という港町に到着しました。センター  
しゅくほくじょ にもつ お じっしゅうせん の はじ ふね  
の宿泊所に荷物を置いてすぐに実習船に乗りました。初めて船に  
の りゅうがくせい おお みな こうぶん ようす わたし  
乗る留学生が多かったので皆さん興奮している様子でした。私た  
ちは尾定先生の説明を聞きながら海の景色を眺めました。先生は  
おさだせんせい せつめい き うみ けしき なが せんせい  
カキやサンマの養殖について話して下さり、私はずっと微生物の  
けんきゅう き ほんとう よ べんきょう  
研究をして来たので本当に良い勉強になりました

ちゅうご ごと いのまきし あゆかわ くじら 博  
昼食後、午後は石巻市鮎川にあるホエールランドという鯨の博  
ぶつかん い にほん くじらぶんか について まな きまぎま  
物館へ行きました。ここでは日本の鯨文化について学び、様々な  
たいけん いちばんおもしろ じっさい しょう げん  
ことを体験しました。一番面白かったのは、実際に使用され、現  
さい ほえーるらんと の 外に 展示されている「第16利丸」を舞台に  
か えいぞう だいが めん くじら じっしき み きまぎま  
したCG化した3D映像です。大画面で鯨の実写を見ながらボディ  
ソニックやエアガン等もある映像が楽しめました。また、男子学  
せい こ くじら きそ しょう ゲームにも挑戦し、全員  
生はボートを漕いで鯨とスピードを競うゲームにも挑戦し、全員  
くじら ま ほんとう たの  
鯨に負けましたが本当に楽しかったです。

ホエールランドから戻った後、夜、交流会が行われました。食事  
をいただきながら、センターで研究していらっしゃる池田先生や学  
せい かた はな ちゅうごく かんこく りゅうがくせい  
生の方たちとお話ししました。中国・韓国・イギリスからの留学生  
の皆さんの他、センターを訪問されていたフィリピンの研究者の方  
たちとも良い雰囲気の中お話しをし、自分の国の文化を紹介したり、  
いこく ぶんか き  
異国の文化について聞くことができました。

いっばく よくあきせんたい もと みじか について きまぎま ちしき  
一泊して翌朝仙台に戻りました。短い日程でしたが、様々な知識  
きゅうしゅう うえ たが りかい ふか けんがくりょうこう かつ  
を吸収できた上、お互いの理解も深まりました。この見学旅行が各  
こく あいだ はし か おも  
国の間に橋を架けるきっかけになることと思います。

